「令和５年度　全国学力・学習状況調査の結果」について

【富里市　中学校】

令和５年４月１８日（火）に、小学校第６学年全児童、中学校第３学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の中学校の結果についてお知らせします。

１　生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「英語」「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

（１）①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

＊調査問題は「国立教育政策研究所」のＨＰで閲覧できます。

http://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm

２　本市生徒の調査結果

本市生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（１）教科の正答率について　〔※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較〕

国　語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
数　学	学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
英　語	学習指導要領における「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと［やりとり］」、「話すこと［発表］」、「書くこと」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

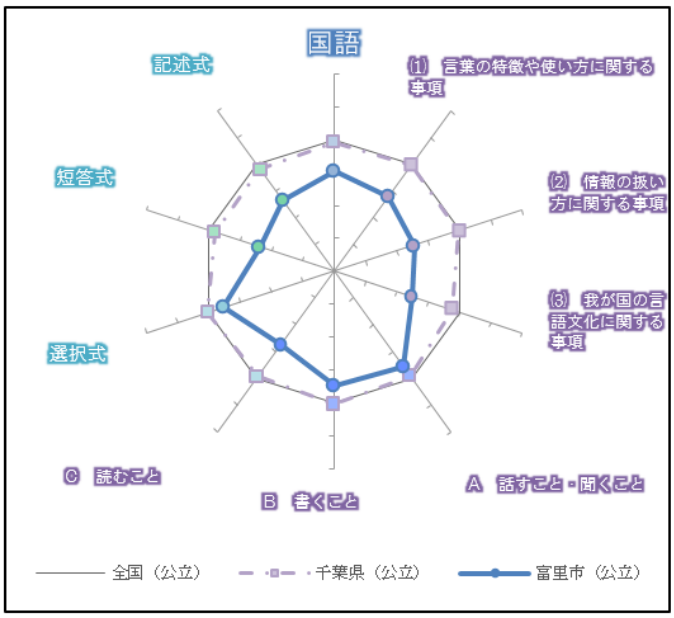
Ａ：＋５.０％より上回っている場合「良好」

Ｂ：＋５.０％～－５.０の場合「ほぼ同じ」

Ｃ：－５.０％より下回っている場合「要改善」

（２）教科ごとの分析

国　語



【特徴と現状】

○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の平均正答率が全国平均を下回っていますが、経年分析を見ると全国の平均正答率に近づいています。

○「我が国の言語文化に関する事項」として出題された、「自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く」問題や「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」問題の正答率が、全国平均を大きく下回っています。自分の考えを広げたり深めたりすることや歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことに課題があります。

○「推し量る」の「おし」の漢字を書く設問の正答率が、全国平均を大きく下回っていました。文脈に即して漢字を正しく書くことに課題があります。

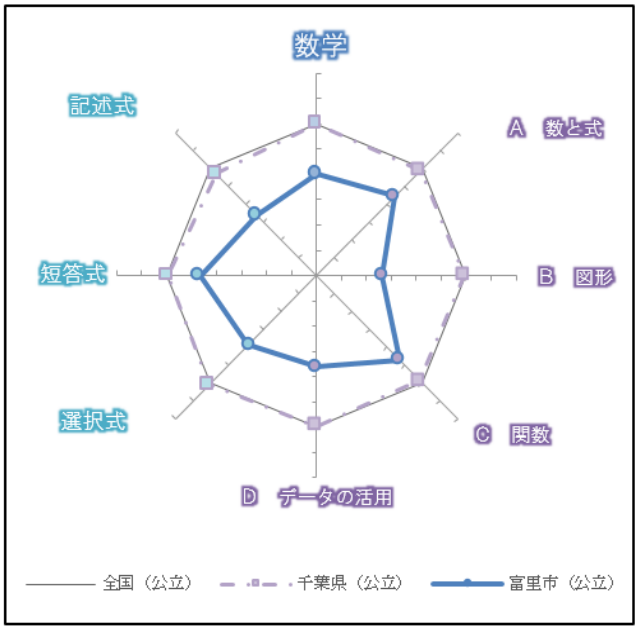
【改善方策等】

○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率が全国平均に近づいていることから、現在の授業での取り組みを継続し、更に「目的や場面に応じて質問する内容を検討する」、「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問する」、「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる」ことができるように授業改善を図ります。

○書かれている内容が十分に理解できるように、文章と対話するように読むことや、主体的に読むことができるように指導する必要があります。また、対話的活動の中で興味や疑問を持つことで深い理解と洞察を得ることができるので、この点を踏まえた授業改善を図ります。

○ 歴史的仮名遣いは、現代の仮名遣いとは異なる文字や読み方があります。まず、基本的なルールとルールに従って文を読む方法を確実に身に付けさせるための工夫や、練習問題に取り組む時間を増やすなどの授業改善を図る必要があります。歴史的仮名遣いは日本の言語と文化を理解する上で重要ですので、継続的な学習と実践を通じて確実な習得を目指します。

数　学



【特徴と現状】

○数学科全体の正答率が、経年分析の結果を見ると昨年度よりも全国の平均正答率に近づきましたが、全国の平均正答率との間には、まだ大きな差があります。

○「関数」「図形」の正答率が、全国平均の平均正答率を大きく下回っていましたが、経年分析の結果を見ると、全国の平均正答率に近づいてきています。

○「はじめの数にかける数が２、たす数が６ならば、計算結果はいつでも４の倍数になるか」を説明する問題の平均正答率が全国の平均正答率を大きく下回っていましたが、「記述式」の経年分析の結果を見ると、全国の平均正答率に近づいてきています。

○「知識・技能」の１２（ｘ／４＋ｙ／６）の平均正答率が７８．２％となっており、県平均の７８．５％や全国平均の８０．５％と近い値になっていました。また、経年分析の結果を見ると、昨年度より全国の平均正答率に近づきました。

○「累積度数を求める問題」の正答率が全国の平均正答率を大きく下回っていました。また、無解答率も１６．３％となっており、累積度数の意味を理解していない、または忘れてしまっている生徒が一定数いるといえます。

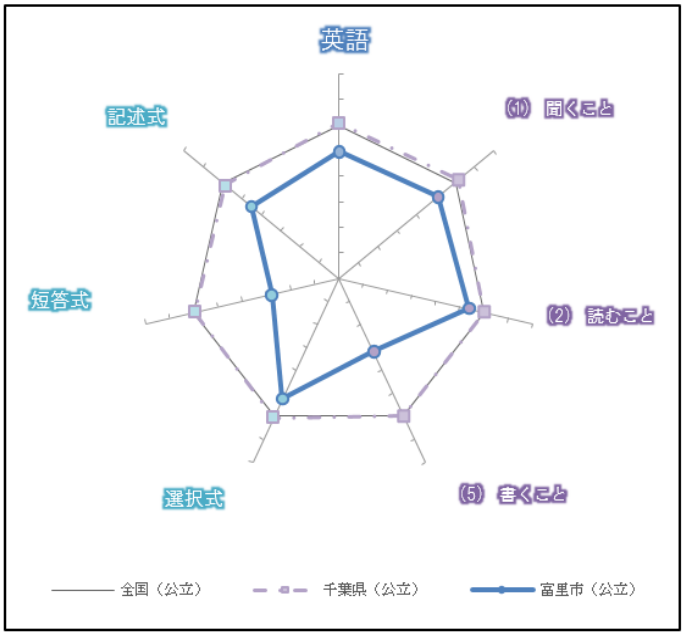
【改善方策等】

○　「知識・技能」の「数と式」の領域については、経年分析の結果から正答率が全国平均に近づいているので、授業における計算練習や復習に加え、今年度より内容を刷新した「とみの国検定」を継続して行い、数学科における知識・技能の確実な習得に努めます。

○　「図形」の学習において、各自がイメージして知識が確実に定着するように、デジタル教材を活用するなどして指導の更なる工夫を図ります。

○　「関数」の学習においては、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるようになることが重要です。グラフや表のデータを比較し、相互の関連性を分析し、そこから得られた情報を授業内で共有する場面を多くとり、データ間の規則性や相違点を見つけられるように、授業改善を図ります。

英　語



【特徴と現状】

○「読むこと」の「ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する」問題や「図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する」問題の平均正答率が全国平均を上回っていましたが、「読むこと」全体の平均正答率は全国平均を下回っており、全体的に見ると課題があるといえます。

○「書くこと」の平均正答率が全国平均を大きく下回っており、課題があるといえます。

○「書くこと」の「ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」問題では、３９．７％が無解答となっていました。社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることに課題があるといえます。

○「書くこと」の「メールの英文を依頼する表現に書き換える」問題では、３４．８％が無解答となっていました。「相手の行動を促す」という言葉の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことに課題があるといえます。

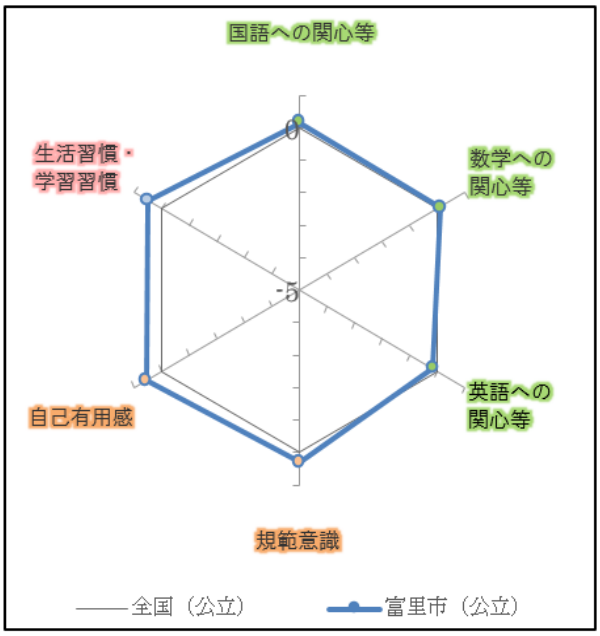
【改善方策等】

○「読むこと」の平均正答率が全国平均に近づいていることから、現在の授業での取り組みを継続し、事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を自分で見つけることができるように練習時間をできるだけ多く確保するなどの授業改善を図ります。

○ ALT が話す実際の英語音声やデジタル教材の音声を使用して、「聞く力」を向上させます。また、さまざまなトピックやアクセントの音声素材を使用し、授業内での英語を聞く機会を増やしていきます。

○「書くこと」の力を向上させるために、 生徒が英文を書くための基本的な文法を確実に理解し、自分の考えと理由が正確に英文表現できるように指導の工夫を図っていきます。既習した文法を使って表現する機会を、年間を通して授業内で多く設け、既習事項を活かした作文方法を意識できるようにさせます。また、授業を振り返る活動や反省を記入する活動においてもできるだけ英文を使うようにし、自分で英作文ができるようになること目指します。

（３）生徒質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」や「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した割合が全国平均を約８％上回っていました。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対して、全体の９４％が「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答していました。

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の質問に対して、９３％が「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答していました。

○「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して、５７人が「どちらかといえば、当てはまらない」、３９人が「当てはまらない」と回答していました。生徒総数の約３０％が将来の夢や目標が持てていない状況となっています。

３　まとめ

どの教科においても、「書くこと」や「記述式」の問題に正答することに課題が見られます。「とみの国検定」や各授業における既習事項の復習を確実に行い、年間を通して学びを下支えする力の定着を図っていきます。生徒質問紙の「学習した内容について、分かった点や良くわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」生徒ほど各教科の平均正答率が高いことから、この点を踏まえた授業改善を図る必要があります。

正答率が高い生徒は、生徒質問紙の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」、「読書は好きですか」、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」「自分には、よいところがあると思いますか」の質問において肯定的な回答が見られました。

家庭での規則正しい生活・学習習慣、読書習慣の定着、学校での主体的な学習態度や自己肯定感の向上が学力にプラスの影響を与えることが明らかとなりました。家庭と学校がそれぞれの役割を果たし、子どもたちの学力向上を図っていくことが求められます。引き続き、各ご家庭でのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。